

公益社団法人いわき青年会議所

2024年度 理事長総括

2024年度いわきJC基本方針に沿って総括する。

【挑戦する心を持った人財の育成】

挑戦する心が生む、温かな成長の光景

いわきJCの仲間たちが見せてくれた挑戦の数々が胸に深く刻まれています。今年は、若いメンバーが自らの足で一步一步新しい世界へ踏み出し、時には困難にぶつかりながらも、その壁を乗り越えていく姿を何度も目にしました。その姿に、私たち先輩メンバーも心を動かされ、勇気をもたらしました。

今年は特に、若手が主体となって動き出す場面が多く、彼らの挑戦の先には必ず仲間の支えがありました。挑戦した人も、それを見守り励ました人も、共に成長できる——そんな温かな絆が生まれた一年だったように思います。一緒に汗を流し、笑い、時には悩みながら、それでも仲間とともに前を向く姿は、未来のいわきJCに明るい光を灯してくれました。

そして、その挑戦の先にはいつも、新しい発見や成長がありました。自分に何ができるかを問い続けたメンバーが、想像を超えた成果を挙げる瞬間に何度も立ち会うことができたのは、何よりの喜びです。「やってみよう」「一歩踏み出してみよう」という気持ちが、どれだけ大きな力になるのかを、今年の活動を通じて改めて実感しました。

この一年、仲間たちと共に挑み、共に成長できたことに、心から感謝しています。そして、この流れを未来につなげ、さらに多くのメンバーが挑戦を楽しみ、成長を分かち合えるようなJCIいわきを築いていきたいと思えます。挑戦する心は、私たちの組織を支える大きな力です。これからもその心を大切に、次なる一歩を踏み出していきましょう。

【未来に紡ぐ組織づくり】

いわきJCは、これまで数々の地域貢献や人財育成を通じて、その価値を地域に示してきました。今、経験豊富な先輩メンバーの卒業を控え、次の時代を担う若い力にその思いを紡いでいく、大きな転換期を迎えています。このような中で、私たちが立ち返るべきは、青年会議所としての「本質」です。それは、1953年の東京青年会議所の設立から脈々と受け継がれてきた、「地域と共に成長し、未来を切り拓く」という不変の使命です。

組織を未来へと紡ぐためには、まずメンバー一人ひとりがJCの理念を理解し、その価値に心から共感することが必要です。たとえ背景や考え方が異なっても、同じ目標に向か

う仲間として手を取り合い、互いを尊重し支え合う中で、私たちは真の「絆」を築いていくことができるでしょう。その絆こそが、未来への希望を形作る原動力になるのです。

また、私たちが共に活動する中で得られる気づきや成長は、単なる個人の成功に留まるものではありません。それは、家族や友人、そして地域社会へと波及し、多くの人の心に灯をともしものであると信じています。その灯が一つ、また一つと増えていくことで、私たちの活動は確かな未来へとつながり、地域の皆さまから「必要とされる存在」としての信頼を得ることができるでしょう。

これからもメンバー間の交流や学びを深め、共に悩み、共に笑いながら成長を続けていきたいと思えます。そして、尊敬し合える仲間を増やししながら、未来を担う力を共に紡いでいくことで、いわき JC はさらに大きな可能性を切り拓いていけると信じています。

【子どもたちの未来を育む機会の提供】

本年度、私たちいわき JC は次代を担う子どもたちに多くの学びと体験の場を提供することができました。この事業を通じて、子どもたちは伝統的な農業手法や地域の文化に触れる一方、現代の技術革新がもたらす農業の未来についても深く学ぶ機会を得ました。特に、東京大学の教授をお招きして行われた最新農業技術に関する講演は、多くの参加者に強い印象を与えました。

講演では、AI やドローンを活用した精密農業や、気候変動に対応するための新たな作物開発技術が紹介されました。子どもたちは、これらの最先端技術が農業の効率化や持続可能性を高めることを具体的に学び、「農業が未来の社会を支える重要な柱である」という視点を得ることができました。また、教授の講演は私たち大人にも深い感銘を与え、次代の農業の可能性を共に考えるきっかけとなりました。

一方で、子どもたちは自分たちの手で土を耕し、作物を育てるという実践的な体験を通じて、農業の本質に触れることができました。こうした体験は、単なる知識の習得を超えて、自ら考え、行動し、成果を味わう喜びへとつながり、彼らの成長にとって大きな一歩となったと感じています。また、体験中に生まれた仲間同士の絆や地域の方々との交流は、彼らにとってかけがえのない財産となりました。

私たちは、こうした講演や体験を通じて、子どもたちの好奇心を刺激し、自ら挑戦する姿勢を育むことの重要性を再確認しました。得た知識や経験が、いわきの未来を担う力強い基盤となることを確信しています。

【誰もが誇れるいわきの創造】

本年、私たちは市長と高校生との座談会を通じて、いわきの未来を考える貴重な場を設け

ことができました。「これからのいわき」「帰りたくなるいわき」をテーマにした議論では、高校生たちの視点から多くの示唆を得ることができました。彼らの純粋で率直な意見は、私たちが見落としていた課題や新たな可能性を浮き彫りにし、地域の未来を見据えた新たな視点を与えてくれました。

この座談会を通じ、私たちは改めて若者が地域づくりに果たす役割の重要性を実感しました。彼らの意識を高め、まちづくりへの関心を喚起することが、持続可能ないわきの発展につながると確信しています。また、彼らが「住み続けたい」「帰りたくなる」と思えるまちを実現するためには、地域の声を受け止めながら、私たちが懸け橋となり、次世代のリーダーが成長するための環境を整える必要があります。

この経験を踏まえ、今後も若者を巻き込む活動を継続的に展開し、学びの場や成長の機会を創出してまいります。そして、いわき市の未来を担う人材育成に力を注ぎ、「可能性を信じ 挑戦せよ」の精神で行動を起こしていきたいと考えます。私たちの歩みが、いわきの明るい未来への一歩となるよう、これからも地域と共に前進してまいります。

また本年も、共創のまちづくりを目指し、いわき JC は地域のシンボルのさらなる発展と広域的な連携を深めるために、様々な活動に取り組んでまいりました。イルミネーション事業を通じて地域の皆様と連携し、高校生とともに新たな価値を創り上げたことは大変意義深いものであったと感じております。

高校生たちが地域の未来について考え、自ら行動に移す姿勢は、共創のまちづくりを進めるうえで希望を与えるものでした。また、この事業を通じて、地域住民の皆様がいわきの新たな魅力に気づき、地域への愛着をさらに深めていただけたことは大きな成果であると考えます。

震災から復興、創生、そして共創へと歩みを進めてきたいわきのまちづくり。その未来を形作るためには、引き続き「オールいわき」を合言葉に、多くの方々と共に手を取り合い、まちの発展に取り組むことが重要です。いわき JC はこれからも、地域の皆様の共感と協力を得ながら、希望ある未来を目指して挑戦を続けていけることを切に願っております。

【未来に繋がる想い溢れる組織の構築】

本年、いわき JC は創立 20 周年という重要な節目を迎えることができました。この記念すべき機会において、これまで地域とともに歩んできた歴史に感謝を捧げるとともに、未来に向けた新たなランドデザインを来賓の皆様にお披露目することができました。式典を通じて、これまでの歩みとこれからのビジョンを共有することで、組織としての方向性をより明確に示すことができたと感じております。

また、記念事業として実施した AI や IoT に関するプログラミングに関する学びの場は、次世代を担う子どもたちへ重要な知識を提供する貴重な機会となりました。未来の技術への理解を深めるだけでなく、参加した子どもたちやその保護者からも大変好評をいただき、大

きな成功を収めることができたと確信しております。

この 20 周年を新たなスタートと位置付け、これからも地域社会への貢献を軸に、メンバー一人ひとりの成長を促しながら、さらなる発展を目指してまいります。我々の運動は、先輩方が築き上げてこられた基盤の上に、新しい価値を創造し続けることで、より広い共感と支持を得ていくことでしょう。未来に向けて掲げたビジョンを実現すべく、いわき JC はこれからも挑戦を続けて欲しいと願っております。

【最後に】

可能性を信じ挑戦せよ

この言葉は、まさに私たちが歩むべき道を示してくれています。変化を望むなら、まず自分自身が変わる覚悟を持たなければなりません。最初の一步を踏み出すことは誰しもが恐れ、躊躇するものですが、その一步が未来を切り開く大きな力になることを忘れてはいけません。歴史は数多くの挑戦と失敗の積み重ねの上に成り立ってきました。失敗を恐れずに挑戦することこそが、発展や進化への鍵であり、私たちが成長し続ける原動力です。

今、私たちにできることは小さな一歩かもしれません。その小さな行動が時間をかけて、やがて大きな変化を生み出す力となります。まちのため、人のため、そして自分のために、まずは行動を起こすことが大切です。私たちが信じる可能性は、決して無駄にはならないと確信しています。

このいわき JC の仲間とともに、何事にも恐れずに挑戦し続けましょう。失敗を恐れず、前向きに行動することで、きっと私たちの努力が実を結び、花を咲かせる時が来ることを信じています。そして、その花が未来の礎となり、地域に、そして私たち一人一人に力強い希望をもたらすことでしょう。

決して驕らず、泥臭く前進して参りましょう。それが自分を成長させ、地域を変える。

公益社団法人いわき青年会議所
第 20 代理事長 野木 崇

公益社団法人いわき青年会議所

2024 年度 副理事長総括

副理事長 長浜靖明

本年度、理事長所信のスローガン「可能性を信じ挑戦せよ」を元に、20th Anniversary 委員会としては以下の3つの運営方針を掲げ、活動・運動して参りました。

- ① いわき JC が地域社会から求められる組織になるために、中長期的な組織の経営（運営）戦略であるグランドデザインを策定し、推進していきます。
- ② 周年式典で「我々の描く未来のいわき」を内外に発信するために、いわき JC の過去の歴史を再確認し、今後のいわき JC のビジョン・方向性を明確にしていきます。
- ③ グランドデザインを元に事業を構築し、いわき市民へいわき JC の中長期ビジョンを発信し、理解していただくための機会を提供します。

まず、4 月例会では、グランドデザインの基礎となる「未来を切り拓くことのできる人財の育成」に着目しました。いわき JC の会員が最先端技術の基礎であるプログラミングを学ぶことで、最先端技術をこどもたちや地域社会に広めていくことができる人財になることを目的とし事業を構築しました。会員へのきっかけづくりにはなったと考えます。

グランドデザイン改定では、地域社会は常に変化しており、いわき JC に求められることを再確認し、それを元に中長期計画を策定し、未来の目標・今後の組織の方向性を会員や地域社会に明確に示すことを目的としました。「組織づくり」「ひとづくり」「まちづくり」の3本柱をベースに、今後のいわき JC の活動・運動の指針として頂きたいです。

20 周年式典では、これまでご支援頂きたいわき青年会議所 OB 会や関係諸団体への感謝を示すとともに、現役会員がこれからのいわき JC が目指す方針や取り組みを理解し、JCI いわきのこれまでの歩みとこれからのビジョンを広く発信することを目的としました。250 名以上の方にご参加いただき、目的は達成できたと考えます。

20 周年事業では、多くのいわき市民や地域社会にグランドデザインを周知する場が必要であると考え、事業を構築しました。プログラミングの体験教室は好評でしたが、もう少し対外的に発信する機能を持った事業とすべきであったと反省しております。ただ、これをきっかけに発展させていくことは可能なので、今後引き継いでいってもらうことを願っております。

20th Anniversary 委員会という、5 年に 1 回しか登場しない委員会の統括は大変貴重な経験でした。過去を振り返り、未来のビジョンを描く中で、改めて感じたことは、過去を全否定・全肯定することもできないし、それは現状の評価の際も同じです。今後のいわき JC の運営では、守るべき伝統は守りつつ、時代の流れを考慮し、現状の最適解を真摯に検討し活動・運動していくべきだと考えます。

公益社団法人いわき青年会議所

2024年度 副理事長年次報告

副理事長 本多 史明

ALL IWAKI 委員会では、「いわきの特性を活かしたまちづくりの推進」「市民主体のまちづくりの推進」「災害に強いまちづくりの推進」この3つの運動方針のもと、1年間運動を展開してまいりました。

第4回イルミエールいわきでは、「まちのシンボルを発展」をテーマに、コンセプトを明確にし賛同者を増やし、市民の皆様と一体となってまちづくりを行うにはどうしたらよいか、市民の皆様が積極的に関わってくれるにはどうしたらよいかを考え、様々なアプローチを計画しました。

昨年同様、イルミエールいわきの理念や目的を市民へ向けて周知し、インフルエンサーを活用して若い世代へ向けて周知することなどを今年も継続して行いました。

しかし、今までの事業では学生や20代の若者のまちづくりへの参画ができていない点が課題として挙げられました。本年から若者のまちづくり事業の参画を促すために、オブジェの制作、学生を中心とした音楽イベントを実施し、若者が活躍できる場を創造したことにより、例年以上の巻き込みに繋がり「共創のまちづくり」が実現できたと考えます。

今後、さらなる連携団体を模索することも大事ですが、引き続き若者が活躍できる場を創造することも必要不可欠であると考えます。

災害関係は、いわき市では今後も災害が発生することが考えられます。起こりうる災害に対し、前年度の運動を引継ぎ、防災・減災の理解を深め、災害時に能動的な行動を起こす意識を高めて、防災・減災の組織力、協力体制を今まで以上に向上する必要があるための例会を行いました。

ただ、他団体との協力体制の強化ができなかったことが反省点としてあげられます。

有事の際だけでなく日頃から顔の見える関係を続けてほしいと思います。

最後に、理事長をはじめ理事役員の皆さま、小笠原委員長をはじめ委員会の皆さま、そして会員の皆さまに感謝をお伝えし、私の年次報告とさせていただきます。

公益社団法人いわき青年会議所

2024 年度 副理事長年次報告

副理事長 熊田 哲也

子ども未来地域連携委員会では、「未来を担う青少年が挑戦するための機会の創出」「未来を担う青少年のまちづくりへの意識醸成」「未来に繋ぐ地域資源の利用」この3つの運動方針のもと、1つの例会、2つの青少年育成事業、1つの推進事業を通じて1年間運動を展開してまいりました。

2月例会では、新体制となり初回の例会ということでモチベーションを高める例会を実施し、参加したJCメンバーのモチベーションの理解が深まり、JC運動・活動、社業にも活かせるといった効果が十分に得られた例会でした。6月に実施した「BACK TO THE 미래のたべもの」では、がんぷ村、パックご飯工場をメイン会場とし、久々の宿泊事業となりました。子どもたちの主体性を育み、将来的にいわき市をけん引する人財としての一步を踏み出してもらうことが出来たと実感しております。次年度以降、さらにこの目標の達成へ近づけるために参加者に対するフォロー体制について綿密な事前の計画が必要でありました。10月青少年育成事業では、「Let's Study IWAKICITY」と題し、いわきから首都圏への人口流出が進む中でも、いわきが「住みたいまち、帰りたくなるまち」と想ってもらえるために、市内の高校生に「Iターン・Uターンしたくなるようなまちづくりの施策」を考えてもらい、座談会形式で市長への質問も交えて実施しました。住みたいまち、帰りたくなるまちの意識を醸成や、高校生たちのまちづくりに関する意識の高まり、未来のいわきを創造するための行動を起こすきっかけを与えることが出来たと考えます。同じく参加した高校生の意見を聞いた事や、市長の考えやまちづくり施策・政策などの考えを聞くことにより、高校生たちのまちづくりに対する意識の醸成になった一方で、いわき市の施策がこの町に住み暮らす若者をはじめ市民の皆さんに届きにくい環境であることを洗い出すことができました。今後、様々な課題を改善することで、よりよいまちづくりに繋がっていくことでしょう。

最後に、事業計画に当たり関係諸団体との多岐にわたる打合せ等々、常任理事をはじめ、委員会スタッフ、理事の皆様には大変お世話になりました。1年間歩みを止めず、素晴らしい事業を実施してくれて、本当にありがとうございました。次年度もいわき市、そして市民の皆様にとって必要となる運動の推進を期待して、2024年度の年次報告とさせていただきます。

公益社団法人いわき青年会議所

2024 年度 総務拡大委員会年次報告

副理事長 鈴木 孝始

新年の幕開けに際し、私たちは盛大な新年会を開催いたしました。この特別な集いには多くの会員や関係団体の皆様にご参加いただき、いわき青年会議所の一年間の方針を示す貴重な式典を実施できたことを大変嬉しく思っております。新年会は単なる社交の場ではなく、私たちの活動の方向性を確認し、共に未来を見据えるための重要な機会であります。このような場を通じて、私たちの結束が一層強まることを期待しております。

また、卒業生にとって「JC」の集大成とも言える卒業式および卒業感謝ナイトを催し、卒業される先輩方への感謝の意をメンバー一同が伝えられるよう、心を込めた設えを企画し、運営いたしました。卒業式は先輩方のこれまでの努力と成果を称えるとともに次の世代へのバトンを渡すとても貴く、美しい事業です。先輩方の活動や運動を通じて培われた経験や知識が次の世代に引き継がれ、いわき青年会議所がさらなる発展を遂げることを心より願っております。

会員拡大に関しては、30名以上の新規加入を目指して活動を進めましたが、結果として16名の拡大にとどまり、当初の目標には及ばなかったことは大変残念であります。しかしながら、新たに入会した会員の多くは非常に前向きで活動的であり、今後の会の中核を担うに相応しい人財へと成長することが期待されます。新しい仲間が持つ新鮮な視点やエネルギーは私たちの活動に新たな風をもたらします。彼らの情熱と意欲が組織全体の活性化に寄与することを願っております。また、私たちは会員拡大が単なる一委員会の責務にとどまらず、組織の存続を左右する組織運営の根幹であることを実感し、その重要性を改めて認識する機会を得ました。今後ますます少子高齢化が進む中で、大規模な拡大を実現することは容易ではないかもしれません。しかし、担当委員会のみならず、すべての会員一人ひとりがその意義と重要性を理解し、実践することで、永続的に回り続ける組織の循環が生まれることを切に願っております。

青年会議所は、まちづくりだけでなく、ひとづくりも、理念を実現するための重要なファクターであると考えています。地域社会における人々の絆を深め、未来を担う若者たちの成長を促すことは、私たちの使命であり、責任でもあります。本年度の活動が次年度以降に繋がり、組織のさらなる飛躍に寄与することを心から願っています。今後も、会員一人ひとりが主体的に参加し、共に学び合い、支え合うことで、より良い組織を築いていけると確信しています。このプロセスは、個々の成長と組織全体の発展を促進する重要な要素です。私たちは新たな挑戦に向けて、引き続き努力を重ねてまいります。

以上で、総務拡大委員会の年次報告とさせていただきます。この活動が地域社会において、より良き未来を築く一助となり、運動として地域に拡がりを見せることが、私たちの切なる想いであり、心からの願いでございます。

公益社団法人いわき青年会議所

2024年度 専務理事年次報告

専務理事 佐藤 稔久

本年度、野木理事長が掲げる基本理念『故郷に想いを寄せる人財による 未来を見据えた活気ある「いわき」の創造』と、スローガン『可能性を信じ挑戦せよ』のもと、組織の基盤となる事務局・財政局をお預かりし、いわき青年会議所の業務執行理事である専務理事を務めさせていただきました。経験がまだ浅い理事が多い中であり、今まで会を支えてきたメンバーが卒業を迎える年ということで、次年度以降に会がしっかりと運営ができる組織となるよう、一年間活動してまいりました。

まずは、理事経験が浅いメンバーが多い中、会の意思決定機関である理事会にしっかりと資料等を提出できるよう議案書セミナーを開催しました。議案書は事業計画・報告の資料というだけでなく、対外に対してしっかりとした運動・活動をしている団体であると示すものでもあります。年初の段階からこのセミナーを実施することで、新任の理事に基礎の部分伝えることができたと考えます。また、スムーズな会議運営を行うために、アジェンダシステムの活用を推進してまいりました。アジェンダシステムにより、会議前に事前に意見を出しその修正対応を行うことができ、会議時間の短縮を図ることができました。ただ、委員会によって上程スケジュールの徹底を図るのが難しかったこともあり、十分には活用しきることができませんでした。時代に即した組織となるためには会議時間の短縮も重要なテーマであり、今後の課題として次年度にしっかりと引き継いでいければと考えております。つぎに、公益法人として、公益事業比率の維持をはじめとして、キャッシュフローや帳簿の管理を行いました。また、事業運営に活用できる補助金等外部資金の模索など、会の健全な運営に努めてまいりました。近年は会員数の減少もあり、事業運営に当たっては様々な方法を検討していく必要があります。今後も自主財源だけでなく、会の運動に共感していただける外部の方を増やしていくことで、人員面、資金面で強化を図っていただけたらと考えます。そして、福島ブロック協議会をはじめとする関係団体との連携について、連絡調整を行いながら、会員の皆様に参加していただけるように情報を共有させて頂きました。JCI いわきとして日本本会や福島ブロック協議会との連携は必要不可欠であり、重要な事となりますのでこれからも、会員が関われるように運営をしてください。

最後に、専務理事の役職を一年間お預かりさせていただきましたが、今年一年やり切ることができたのは、多くの会員に様々な面で協力をしてもらえたことが大きいと考えます。来年度以降、今度は自身の経験を次代につなぎ、周りを巻き込みながらJC運動・活動に邁進していければと考えます。あらためて、支えていただいた会員の皆様に多大なる感謝を申し上げ、専務理事としての年間報告とさせていただきます。一年間ありがとうございました。

公益社団法人いわき青年会議所

2024 年度 総務拡大委員会年次報告

常任理事 草野 祐介

本年総務拡大委員会では、基本方針である「故郷に想いを寄せる人財による 未来を見据えた活気ある「いわき」の創造」のもと、新年会から卒業式まで一年間運動を行ってきました。また、本年度スローガンである「可能性を信じ挑戦せよ」を心におき新入会員と共に委員会として活動してきました。

一年のはじまりでもある新年会では新体制の発信と日頃から良好な関係性を築いている関係団体の皆様へ本年度の運動に対する方針と感謝の意を込めて執り行うことが出来ました。多少のご指摘等はありませんでしたが昨年計画し委員会一丸となり行うことができたことが良好な運営ができた大きな要因であったと考えます。

7月の例会では新しいことへ挑戦することに対する意識醸成を目的とした例会となりました。いわきスポーツクラブ代表大倉様をお招きしご講演頂きました、会員同士でグループワークを通して分かち合い発表することで意識醸成に繋がった例会でありました。新しいことへの挑戦には勇気がいりますが、挑戦することを共有することで一歩踏み出すきっかけを創る場になったと思います。

11月の例会は新入会意を中心に委員会メンバーでサポートを行いながら会員同士交流を図る例会を行いました。新入会員にとっても計画段階から例会当日まで多くの苦難もありましたがしっかりとやり切りいい経験になりました。この経験を次年度以降に活かしてもらえれば組織力の強化さらなる飛躍につながると確信しています。

本年度は会の中核を担った卒業生が多く卒業する年ではありますが、卒業生全員での卒業式参加そして感謝ナイト非常に素晴らしいものであったと考えます。計画段階より、卒業生ひとりひとりに思いを寄せ委員会で考えた時間がしっかりと反映されたものと考えます。本年の卒業式感謝ナイトは、卒業生にとって晴れの門出と感謝の意を伝える場になったと考えます。

一年間を通した会員拡大に関して目標には到達できませんでしたが、新入会員に対し寄り添いフォローできたのではないかと考えます。組織力の強化に、数は必要であり今後も拡大には注力していかなければなりません。また、会員ひとりひとりに対し会の存在意義やあり方を共有していくことも同時に必要になってきます。この二つを両立していくことが次年度以降も必須であると考えます。また、本年は拡大リーフレットを新しく作成しました。様々な意見を頂きながら委員会で創り上げた素晴らしいものとなっていますので、是

非とも次年度以降の拡大に使って頂ければと思います。

最後に、総務や拡大は直接事業があるわけではなくあまり目立ったものではないのかもしれませんが、会の運営組織力の強化には必須のものであり、縁の下の力持ち的な要素が多くあります。次年度以降も会員数の減少など多くの課題があると思いますが、本年度行ってきたものをつなぎブラッシュアップしていくことで、未来に紡ぐ組織につながり、故郷に想いを寄せる人財による 未来を見据えた活気ある「いわき」の創造につながっていくものであると確信しているとともに今後の組織が飛躍していくことを願い組織拡大委員会の年次報告とさせていただきます。

公益社団法人いわき青年会議所

2024 年度 常任理事総括

常任理事

私は ALLIWAKI 委員会担当常任理事として、①いわきの特性を活かしたまちづくりの推進②市民主体のまちづくりの推進③災害に強いまちづくりの推進を運動方針として掲げ、一年間運動をしてまいりました。

いわきの特性を活かしたまちづくりの推進、市民主体のまちづくりの推進につきましては、第 4 回イルミエールいわきを実施しました。多くの市民を巻き込んだまちづくりを推進するため、本年は若年層に焦点を当て、中高校生を主体として事業を開催しました。具体的には、市内 3 校の吹奏楽部による演奏と市内 5 校による「サステナブル」を意識したオブジェ制作を行いました。昨年度は一校による吹奏楽の実施でしたが、本年度は 3 校まで広げることができました。いわき市は高校生の吹奏楽が盛んな地域でもあることから、市民を巻き込むことができる点でとても有効な手法となりました。また、昨年度の引継ぎより、時間帯を考え、冷え込まない時間に実施することで高校生だけでなく、多くの市民に我々の推進するまちづくり運動への参加を促すことができました。まちの特性を活かした事業を実施した点でとても有効な手法だったと考えます。また、「サステナブル」を意識したオブジェの制作においては各校のごみを利活用した作品を多く並べることができました。若い創造あふれる作品を作成する高校生と触れ合うことで我々自身もまちづくりに対する新たな視点が生まれ、今後、事業を構築するアイデアにつながりました。まちを活性化させるだけでなく、持続可能なまちづくりにつなげるためにも、若い人財とのかかわる機会は重要になってくると考えます。

災害に強いまちづくりの推進については、いわき市といわき市社会福祉協議会を巻き込み、防災・減災に関する例会を 3 月に実施することができました。本年度は大きな災害が起こることもなく、1 年を終えることができましたが、災害に備え、多くの準備が今後必要になってきます。そのためにも、志を同じくし、協定を結ぶ関係団体との協力を大事に、運動を推進することが重要になってきます。

1 年を通じ、まちの課題を考え、今、まちに何が必要なのか考えた 1 年となりましたが、我々が今後もいわきに強い影響を与える団体であり続けるためにも、形や手法を変えながら、課題を解決することができる事業を実施していく必要があります。そのためにも、次年度では、多くの志を同じくする仲間を集め、組織を強化してまいります。

公益社団法人いわき青年会議所

2024 年度 子ども未来開拓委員会 総括

子ども未来開拓委員会 常任理理事
佐久間 順也

子ども未来開拓委員会では、本年度の基本理念の一つである「子どもたちの未来を育む機会の提供」を中心に運動を展開してまいりました。様々な視点から物事を考えられる人財になれるように、青少年をターゲットに日常では経験することのできない体験や学ぶ機会を提供する事業を実施しました。また、いわき市の抱えている問題に対して向き合い、その解決策を考えて発信する機会を提供し、未来を担う人財の意識を変えるきっかけとなる事業を展開して参りました。

6月青少年事業「BACK TO THE みらいのたべもの」では、小学生を対象に「食文化」をテーマにして昔、現在、未来を実際に体験し、専門家の話を聞かせることで子ども達の探求心を刺激し、広い視野を持たせることができたと同時に、事業全体を通して主体性を育ませることができたと考えております。この事業に参加した小学生が次代のリーダーになれるきっかけの一つとなったと、実施後の参加者を見て実感しています。

10月事業「Let's Study IWAKICITY」では、高校生を対象として、いわき市の抱えている「人口流出」問題に焦点をおき、その問題を考え解決策を考え、それをいわき市長へ提案して意識を高める事業を実施しました。「住み続けたいまち、帰りたくなるまち」を実現するために、高校生の視点から多種多様な意見を出し、今のいわき市に足りないことやこれから取り組むべきことを考える機会を提供できたと思います。調べて考えることも重要ではあると思いますが、何より高校生自らの意見を直接市長に伝えることで貴重な経験をさせることができたと思います。これによって意識が高まり「未来のいわき」を創造するための行動を起こせる人財になる良い経験を与えられたと考えております。

以上2つの事業がメインの委員会活動でしたが、多くのメンバーに支えてもらいながら実施することができたと感じております。委員会として計画段階から事業実施までスムーズに運営できなかつたことは反省点としてあげられます。事業となると、どうしても運営を中心に計画し当日を向かえがちになってしましますが、目的を見失わないように念頭において実施することが目的を達成するために不可欠であると痛感させられました。JC歴が浅く、これからいわきJCを担っていく委員会メンバーも多くいたので、この教訓を自分が委員会運営を実施する立場になった時に活かして、より良い運動を展開してくれ人財へと成長してくれたら幸いです。これからより一層いわきJCの運動が実りあるものになることを期待しております。一年間ありがとうございました。

公益社団法人いわき青年会議所

2024 年度 常任理事年次総括

常任理事 小野 貴弘

20th anniversary 委員会では① 未来に繋がる想い溢れる組織の構築・発信、② 未来へと繋げる事業の構築、③ グランドデザインの策定・推進の3つの運動・運営方針の基、1年間活動を行ってきました。

まず4月例会では、最先端技術の基礎であるプログラミングが教育現場では他国と比較して遅れており、また大人も十分に使いこなせていない背景から、最先端技術をこどもたちや地域社会に広めていくことを目的に実施いたしました。講師には北原様を選定し、記念事業においても係わるため、念密な打ち合わせを年次前より行いました。例会ではPCを実際に操作しながら、プログラミングの基礎や、有用性を会員に学んでいただくことが出来たと考えます。

グランドデザインの改定に関しては、直前理事長、監事を含む多くの理事の皆様から様々な意見をいただき、それを委員会でもとめて作成していきました。中長期ビジョンとして今後最低5年間は運用していくグランドデザインは、とても良いものに仕上がったと考えます。推進活動に関しては各例会での報告で行いましたが、手帳に印刷されていない中での推進であったので、会員に浸透するのは次年度以降になると考えます。

20周年記念式典では、これまでご支援頂きたいわき青年会議所 OB 会や関係諸団体への感謝を示す場を設え、感謝と今後の JCI いわきの方針を理解していただくことを7目的に実施いたしました。式典を準備するにあたり OB を混ぜたグループラインを作成し、各種資料や席次の作成に様々なアドバイスをいただきました。その中で資料の内容が前日になっても確定せず、OB にご迷惑をおかけしたことが大きな反省点として挙げられますが、式典自体はとても良いものが行え、感謝と方針を十分に伝えることが出来たと考えます。また本式典は会員 100%出席を目標に広報、出席促進を行ってきましたが、多くの会員に参加をしていただいたことに感謝いたします。

20周年記念事業では多くのいわき市民や地域社会にグランドデザインを周知する場が必要であり、地域社会に新たなグランドデザインを理解していただくために、ICT に重きを置いた事業を実施しました。事業では e-kagaku と共同で事業を行う中で、我々の考えの共有や実施したいことなどの要望を伝え、内容を決定していきました。当日は天候に恵まれず、多くの青少年を事業にまきこめませんでした。ICT で活躍する同年代の人たちを見て、その道に進むことが出来ると城が得られたと考えます。

20周年記念誌作成では、作成のスタートが遅れてしまい、配布が式典までに間に合いま

せんでした。また、作成のスケジュール通りに作成が間に合わず、印刷会社にご迷惑をおかけしました。記念誌は作成に時間がかかるので、予定者段階で動くべきだと考えます。

最後に、今年度は創立20周年の節目の年であり、その式典、事業に携われる委員会の常任理事を1年間務めたことに様々な学びや、反省がありました。日々の活動、運動では副理事長をはじめとする委員会メンバー、OB、OGの皆様にとくさんのご迷惑をおかけしたと思います。しかし1年間を振り返ってみて、多くの失敗からの学びが多くあった点ではとても成長に繋がったと思います。今後もいわき市、そして市民の皆様にとって必要な運動の展開行う事をお誓いし、2024年度の年次総括とさせていただきます。1年間ありがとうございました。

2023年度 委員会年間活動報告書

■ グループ名	20th Anniversary委員会	■ 副理事長	長浜 靖明	■ 常任理事	小野 貴弘
■ 委員会名	20th Anniversary委員会		■ 委員長	溝井 清弥	
■ 副委員長	佐藤 辰哉		■ 副委員長	四家 凌一	
■ 運営幹事	四家 麻未		■ 会計幹事	西原 亮	
■ 委員	高宮 暢昭	新妻 美沙	吉田 寛和	山口 宗之	徳能 崇晃
	滝口 敦				

■ 委員会の設置背景

- 今年JCIいわきは創立20周年を迎えます。この20年は、5JCの統合から始まり、東日本大震災及びそこから復興、コロナ禍と激動の時代でした。そこで、この節目の年に、まずJCIいわきの過去の歴史を振り返り、組織のアイデンティティや組織として大切にしてきた価値観を再認識する必要があります。また、それを元に、次代や地域のニーズに合わせた今後のJCIビジョンを明確にする必要があります。
- JCIいわきは、「我々の描く未来のいわき」を地域に発信することで、地域社会への貢献や会員の成長とともに、更なる発展を遂げる必要があります。
- JCIいわきのビジョンを地域社会に正確にかつ迅速に伝えるのは、情報が溢れる現代社会の中では困難なこととなります。そこで、単に文字や言葉で発信を行うだけでなく、具体例を示すことで、地域社会により深く理解していただく必要があると考えます。

■ 目的

- JCIいわきが地域社会から求められる組織になるために、中長期的な組織の経営(運営)戦略であるグランドデザインを策定し、推進して行く事を目的とします。
- 周年式典で「我々の描く未来のいわき」を内外に発信するために、JCIいわきの過去の歴史を再確認し、今後のJCIいわきのビジョン・方向性を明確にしていきます。
- グランドデザインを元に事業を構築し、いわき市民へJCIいわきの中長期ビジョンを発信し、理解していただくための機会を提供します。

■ 開催事業

日時	事業名	2024年度4月例会「ICTの基礎とは何か？ICTを身近に感じ理解しよう！」			
2024年4月11日(木) 19:00～21:00	開催場所	いわき市生涯学習プラザ 4回大会議室(1)			
	事業種別	公2	[公益性]	有	[対象者] 対外: いわき市役所の産業振興部、産業ひとづくり課 対内: いわきJC正会員、特別会員
	背景、目的	<p>背景: ICTは社会の様々な課題を解決する手段としてあらゆる分野で活用が進んでいる一方で、いわき市は大都市と比較してICTの活用や教育が遅れているのが現状です。そのような状況では、いわき市の子ども達がICTを活用し社会の課題の解決に貢献できる人財になることは困難です。そのため会員がICTの有用性と必要性を知ることが重要と考え、本例会を計画いたしました。</p> <p>対外目的: いわきJC会員がICT教育の現状を理解し、子ども達に将来ICTの道に進む選択肢があるという気づきを与えられる人財になる事が目的です。</p> <p>対内目的: 本例会の事業内容を見ていただく事で、いわきJCが20周年記念事業に、より多くの子ども達を事業に呼んでICTを理解する目的として取り組んで行くのかを知っていただき、共に協力関係を築くことを目的とします。</p>			
	事業内容	<p>【第一部 背景説明】 第一部では西原会計幹事がパワーポイントを使用し、ICTの基礎知識やいわき市のICTの現状、いわきJCの目的などの内容を発表しました。</p> <p>【第二部 講師講演】 第二部では北原様がパワーポイントで会員の皆様に、子ども達にICTをどのように教育しているのか、教育する事で子供たちが将来どのような人財として活躍出来るのかを講演しました。</p> <p>【第二部 ICT課題】 北原様から会員に、ICTを学び理解する為に、実際にパソコンを使った体験を行いました。</p>			
日時	事業名	2024年度公益社団法人いわき青年会議所20周年記念式典及び祝賀会			
2024年8月25日(日) 20周年記念式典 15:00～16:30 祝賀会 17:00～19:00	開催場所	いわきワシントンホテル椿山荘			
	事業種別	他1	[公益性]	無	[対象者] 対外: 関係諸団体、いわき青年会議所OB会、いわき平青年会議所OB会、勿来青年会議所OB会、常磐青年会議所OB会、内郷青年会議所OB会、磐城青年会議所OB会親睦会、来訪JC(延岡JC) 対内: 公益社団法人いわき青年会議所正会員、特別会員
	背景、目的	<p>背景: いわきJCは20周年を迎えます。今後も地域社会から理解される組織であるためには、まずこれまでご支援いただいたいわき青年会議所OB会や関係諸団体への感謝を示す必要があります。そして、現役会員がこれからのいわきJCが目指す方針や取り組みを理解し、いわきJCのこれまでの歩みとこれからのビジョンを広く発信する必要があると考えます。</p> <p>対外目的: いわきJCの運動にご協力、ご理解を頂いた関係各位に対し感謝の意を示すと共に、今後のいわきJCの方針を提示させていただき今後も興相憶いただくことを目的とします。</p> <p>対内目的: これまで協力いただいた関係各位に対し感謝の意を示すと共に、次代に向けた強固な組織を構築していくために、いわきJCの歴史と歩みを再認識し、会員同士の結束と意識の強化に繋げることを目的とします。</p>			

	[事業内容]	20周年記念式典 ・理事長挨拶 ・グランドデザイン発表(2025年度理事長予定者) 祝賀会 ・オープニングアトラクション「フラッシュ」			
日時	[事業名]	公益社団法人いわき青年会議所20周年記念事業「ICT体験展覧会」～未来のいわきを作るのは君達だ～			
	[開催場所]	小名浜潮目交流館、アクアマリンパーク			
	[事業種別]	公2	[公益性]	有	[対象者] 対外:いわき市内の小学3年生から中学3年生 対内:いわきJC正会員、特別会員
2024年9月21日(土) 9:30～16:00	[背景、目的]	背景: ICT技術が進歩している現代社会において、機器による遠隔操作や自動運転などが当たり前の物となっています。進みゆく現代社会の中で、未来を生きる青少年たちがICTによる知識・技術の重要性を知る事で自ら切り拓くことのできる人財として行動しなくてはなりません。青少年たちに様々な将来の選択肢を、我々大人達が新たなICTという存在を学ぶことができる場を提供する必要があります。 対外目的: いわきJCの新たなグランドデザインを市民の方々に理解してもらう為に事業を行います。いわきの青少年にICTの最先端に触れてもらう事で、将来の選択肢の1つとしてICTの道があることを認識してもらうことを目的とします。 対内目的: 事業を通じて、会員に新しいグランドデザインの理解を深めてもらいます。そして、青少年に新たな選択肢を持たせる事業の中で、未来に向けて自ら挑戦出来る人財になってもらう事を目的とします。			
	[事業内容]	20周年記念事業 各ブース ・ドローン操縦デモと座談会 ・ICT体験教室 ・4足歩行ロボットデモンストレーション ・IoTボール体験コーナー ・GoCube体験コーナー ・いわきJCブース ・宇宙船内服試着体験 ・協力キッチンカー(株式会社ヘレナ・インターナショナル、ALOHASTYLE、porco、ジェラテリア、ひかりcafé、ヤキマル、ハレ・アイナ・ハワイ)			

■ 年間計画の実現と成果

年間計画について、式典に配布する予定の記念誌が間に合わなかった点と20周年記念事業の会議等で臨時理事会を開催するなど、計画に沿えない部分が2点ありました。

2024年度4月例会「ICTの基礎とは何か？ICTを身近に感じ理解しよう！」

・20周年記念事業に向けて、メンバーがICTについての知識を理解する為、e-kagaku科学国際教育協会の北原さんにご講演していただき、技術を知るのには難しかったですが、いわき市のICTの重要性をメンバーに伝える事ができました。

公益社団法人いわき青年会議所創立20周年記念式典及び祝賀会

・20周年記念式典を開催するにあたり、OBの先輩方との打ち合わせ自体は遅れてしまいましたが、緻密な打合せを行い大きなミスが無く開催する事ができました。しかしながら式典にお渡しする予定の記念誌が間に合わず配る事が出来なかったため、年始の内から取り組む必要があると考えます。

公益社団法人いわき青年会議所20周年記念事業

・4月例会から繋がった事業で、青少年にICTの分野を知っていただき、新しいきっかけを与える内容でした。体験教室に参加する青少年をご案内する際に、各学校への配布も滞りなく完了し無事、応募人数ピッタリの申し込みがありましたので、良かった点を次年度にも引き継いでいこうと思います。残念ながら、アクアマリンパークの会場の手続きが進まず、キッチンカーの皆様にご迷惑をかけてしまいました。結果、臨時財審を開く事となってしまったので、キッチンカーの皆様へのご協力依頼を早めに取り掛かる事で、対外の協力団体にご迷惑が掛からないように段取りする必要があると考えます。

■ 次年度以降へに引継ぎ事項

2024年度4月例会「ICTの基礎とは何か？ICTを身近に感じ理解しよう！」

・会員が対外向けにICTの重要性について発信する為にも、会員がICTなどの最先端技術について理解しなければいけませんでしたが、いきなりICTの基礎を学んでも、すぐに身に付けるほど簡単な内容ではありません。中には最先端技術に苦手意識を持つ会員も多くいましたが、基礎知識を身に付ける事だけが理解ではないので、次年度以降は会員自身や青少年が最先端技術であるICTの重要性を理解しながら楽しめる実践内容の事業構築が必要であると感じました。

公益社団法人いわき青年会議所創立20周年記念式典及び祝賀会

・次の25周年記念式典の引き継ぎ事項として、当日開催の半年前からはOBの先輩方とのグループLINEを作成し、早々に打ち合わせを行い、席次表や案内状、来賓リストなどを緻密に行う必要があります。特にご来賓の名前の間違いは絶対に間違えないようにスタッフとOBで何回も確認が必要です。記念誌は10周年ごとに作成しますので、今回は30周年記念式典にて作成があります。記念誌は直近の歴代理事長からのコメントをいただくかなければなりません、記念誌作成については1月段階から取り組み、こちらもOBの先輩方との打ち合わせは必須ですので、式典と同時進行で進めた方が良く感じました。

公益社団法人いわき青年会議所20周年記念事業

・記念事業ではICTを実際に体験して、青少年にICTの分野があることを知って、将来の1つとしてきっかけを与える事業内容でした。実際に体験できるメンバーは小中学校を対象に行い、結果多くの申し込みがありました。各学校へのチラシ配りですが、教育委員会の方で配布する事はありませんので、開催1ヶ月前から配布する必要がありますが、委員会メンバーで協力をすべく、メンバーとは緻密に連絡する必要があります。また当日参加者も閲覧できる内容については、近隣の施設や広報関係の企業に依頼をするなど、広報に力を入れないと人は集まらずいわき青年会議所がどのような団体で何の活動をしているのかをいわき住民に伝えることができません。広報についてはどの事業でも配布やご案内をしますので、委員会メンバーが協

かし、1人でも多くのいわき市の方々達にいわき青年会議所の活動を知っていただけるように取り組む必要があると感じました。

■ 委員長所見

2024年度4月例会「ICTの基礎とは何か？ICTを身近に感じ理解しよう！」

・本例会は、日々デジタル化が進むこの社会において、日本やいわき市のICT教育の現状を理解し、子ども達にICTという重要な分野があることを気付かせ、将来のICT人材を育成することを目的として開催されました。第一部では、日本といわき市のICT教育環境の現状について講演が行われ、残念ながらいわき市は他の自治体に比べてICT教育が遅れている実態がデータから明らかになりました。第二部では、参加者が実際にICTを体験する実習を行いました。普段パソコンを使わない方々でも、ICTに直接触れる貴重な機会となり、ICTスキルの重要性を肌で感じる事ができました。しかし、プログラム操作の際に一部の参加者に動作トラブルが発生したり、進行に遅れが生じるなど、事前の準備や打ち合わせ不足が浮き彫りになりました。今後は、講師との綿密な打ち合わせを行い、円滑な進行を心がける所存です。ICTリテラシーは、今後ますます重要になる分野です。私たちは、子どもの頃からICTに触れ、将来のICT人材となるきっかけを与え続けることが使命であると、強く感じております。

公益社団法人いわき青年会議所創立20周年記念式典及び祝賀会

・いわきJCは2024年度で20年を向かえ、記念式典により先輩方や来賓の方々への感謝とこれからのいわきJCが取り組むグランドデザインの発表を致しました。式典を実施するに辺り、私達現役会員だけでは開催は実現できず、先輩方と協力して成り立つ式典でした。事業の中でも、いわきJCのOB会の助けが必要になる物もあるため、OB会との関係は大切にしておく必要があると、これからの現役会員にも繋いで行こうと思っております。式典当日では理事長によるご挨拶・次年度理事長によるグランドデザイン発表の際に、来賓の皆様だけではなく現役会員の皆様にもこれからのいわきJCの取り組んで行く道筋を理解し、次年度から新しいグランドデザインを基に活動して行く事を期待します。20周年記念式典を開催するにあたって、私達20th Anniversary委員会だけでは成功は出来ませんでした。司会を引き受けて頂きました新入会員の皆様、リハーサルや式典当日に来賓の皆様にお渡しする記念品のまとめなど、いわきJC全員で取り組んでいることの大切さを改めて実感しました。これからの事業や会議でも同じ現役会員同士、協力しながらいわき市の魅力を引き出し、広めて行ける組織であり続けることを願います。

公益社団法人いわき青年会議所20周年記念事業

・本事業では、青少年に向けてのICT体験教室を開き体験させることで、自ら切り拓く事の出来る人材に育てて行き、将来の選択肢としてICTを使ったプログラミングがあるなど、青少年にきっかけを与える目的で開催しました。体験教室終わりに、青少年と保護者の方にアンケート記入をして頂きました。結果として開催前は「イメージや想像がつかない」と意見が多かったのですが、参加後には学びの場や興味・関心に「とてもなった」と多く頂き、今事業の目的である「きっかけ」を与える事が出来たのではないかと思います。ICTは1度の体験やきっかけだけでは、理解まで追いつかないと思いますので、継続的に事業を計画する必要があると考えます。今回体験教室にて応募して頂きました青少年の皆様はきっかけで終わらせるのではなく、ICTが社会にどれだけ使われているのかを知り、将来の道しるべとしての事業に繋げていく事が重要です。事業の運営に付きましても、e-kagakuさんと福島ベースボールプロジェクトさんのサポートとして会員メンバーが入るなど、会員が役割に縛られるなど、上手く運営に立ち回れない状況でした。協力団体の方々それぞれブースに任せる事で、会員メンバーが自由に動く事ができ、参加者に向けて様々な情報を発信出来たのではないかと、多くの改善があったと考えます。私達会員もICTの分野に触れている会員は少ないと思いますので、今後の事業に向けて私達会員もICTについて身に付けて行くべきだと改めて感じました。また本事業を開催するまでに、多くの団体の皆様のご協力して頂きました。会場やキッチンカーの皆様、機材の提供をして頂きました企業の皆様の協働の中での事業でしたので、事前に緻密な打ち合わせを行い、当日も各団体からの支援をして頂いていることにも感謝しながらサポートし運営する事が大切だと感じました。関係を築く事で、今後の事業でも協力して頂く事が出来ると感じます。今回の事業では参加会員数がとても少なかったのが現状でして、各ブースでの割り振り人数も最小数で回し終える事が出来ました。事業構築の大変な状況ですが、委員会連携を取りながら早めに余裕ある広報を行うことが重要です。

2023年度 委員会年間活動報告書

■グループ名	いわきJC	■副理事長	本多 史明	■常任理事	大和田 勝史
■委員会名	ALL IWAKI 委員会		■委員長	小笠原 慶	
■副委員長	小菅 悟		■副委員長	有馬 悠二	
■運営幹事	吉田 智徳		■会計幹事	草野 潤	
■委員	遠藤 勝弘	松山 孝弘	近藤 哲史	藤岡 隼	北嶋 裕介
	小澤 楓				

■委員会の設置背景

①いわき市では人口減少に伴う地域社会の衰退が進む中、共創のまちとして存続していくために、多くの市民の方々の共感を得て、まちの魅力を再確認し、まちづくりに積極的に参加する市民の方々を増やしていく必要があります。
②いわき市はこれまで様々な災害を経験してきました。災害に強いまちづくりに繋げていくためには、有事の際に機動的かつ効果的に行動できるよう行政や関係諸団体とより強固な連携体制を整える必要があります。これまで 得た知識や経験を行政や関係諸団体と共有、意見を交換しながら、防災・減災の知識をさらに深め、率先して行動できる組織にする必要があります。

(委員会運営方針) □□

- ①志を同じくする団体との連携を深め、いわきに暮らす人々のまちづくりに参加したくなるシンボルの発展に繋がるまちづくりを目指します。
- ②支援関係にある団体と協力を深め、災害に対し、これまでの災害の経験を活かし、利他の精神で行動を起こせる組織運営を目指します。

■目的

■開催事業

日時	事業名	災害に強いいわきJCをつくる！			
2024年3月14日	[開催場所]	いわき市文化センター 中会議室(1)、(2)			
	[事業種別]	他2	[公益性]	無	[対象者]
	[背景、目的]	事業に至った背景としては、いわき市は今後も災害が発生することが考えられ、起こりうる災害に対し、前年度の運動を引継ぎ、防災・減災の理解を深め、災害時に能動的な行動を起こす意識を高めて、防災・減災の組織力、協力体制を今まで以上に向上する必要があるため、本事業の計画に至りました。 対外目的を防災・減災の知識を高め、有事の際に、支援団体と協力し合える関係を深めることとし、対内目的は災害に直面した際に、自ら、必要な行動、支援ができる人材となることを目的としました。			
	[事業内容]	1部では、2023年に起きた内郷水害時にどのような被害を被ったのかをいわき市危機管理部危機管理課 課長 間部芳文様から講話いただき、いわき市社会福祉協議会事務局長 篠原洋貴様には、2024年1月に発生した能登半島地震の際にボランティアとして参加された際の現地の状況や、離れた地域からの支援方法、現在の災害時にどのような対策が取られているのかを講話の中でお聞き学びました。 2部では阪神・淡路大震災で、災害対応にあたった神戸市職員へのインタビューをもとに作成された、カードゲーム形式の防災教材である「クロスロード(一般編)」を使い、各グループに分かれ自分の考える災害時の行動についての意見や他者との価値観の存在に気付くとともに、合意形成のための判断力やコミュニケーション力を取得できるよういたしました。			
日時	事業名	第4回イルミエールいわき			
2024年4月24日～2025年1月13日	[開催場所]	JRIいわき駅前大通り、ペDESTリアンデッキ、JR湯本駅前、内郷(いわき泌尿器科裏 新川沿い桜並木)、小名浜(アクアマリンパーク)、JR泉駅前(照島のモニュメント)			
	[事業種別]	公1	[公益性]	有	[対象者]
	[背景、目的]	事業に至った背景としては、まちづくりの活動に参加していない市民が多いことから、いわき市民のまちづくりへの興味関心が低いことが課題です。そのため、いわき市民が積極的にまちづくりに興味を持ち、新しい魅力に気づいてもらうために、まちのシンボルを発展させる必要があります。そのため、本事業の計画に至りました。 対外の事業目的はまちのシンボルの発展を通じ、まちづくりへの興味関心を高め、いわき市民が今後のまちづくりの活動に参加するまちにすることとし、対内目的はまちづくりの運動を通じ、能動的にJC運動を行うことで、地域に対してリーダーシップを発揮できる人材となることとしました。			
[事業内容]	広報：SNSアカウントの作成・運用 / 協賛活動用チラシの作成・配布 LED設置：連携団体とのLED設置 点灯式・副事業：HoiHoiVISIONを活用した連携先プロモーション動画の放映 / 飲食店とイルミエールいわきクラボメニューの店内販売、いわき市内5校を巻き込んだイルミネーションオブジェ、市内中学1校・高校生2校の吹奏楽による演奏、フォトコンテストの開催				

日時	[事業名] 2024年度災害対策組織図			
	[開催場所] なし			
	[事業種別] 報告	[公益性] 無	[対象者]	正会員、特別会員、いわき市危機管理部、いわき市社会福祉協議会
2024年1月1日～ 2024年12月31日	[背景、目的] 有事の際に、利他の精神を持ち、迅速かつ適切な行動を取れるよう、各自が自身の役割を理解することを目的としました。			
	[事業内容] 2024年度に運用できる災害組織図に更新しました			

■ 年間計画の実現と成果

年間計画：概ね年間計画に沿って実施することができましたが、第4回イルミエールいわきの点灯式開催計画並びに予算に関する議案の上程は10月28日に一部審議を取り、10月30日に全体審議へと変更しました。

3月例会：近方・遠方での発災時にいわきJCがどう動くか震災地では何を必要としているのか、そしてグループで分かれて行った防災教材カードゲームでは新たな価値観を得る・学ぶことができ、支援協定先も参加いただいたことから顔が見える関係性づくりができました。

イルミエールいわき：SNSを用いた情報発信の他、チラシ、ロコいわきを使用した比較的若年層への情報発信を行いました。ただ市民の声にはどこの団体がイルミエールいわきを行っているのか分からないと一部あったため、開催団体元の主張はまだ不足していると感じ、媒体を使い発信することが必要であると考えられます。災害対策組織図：2023年9月に発災した内郷水害の経験を基に様々な職種が所属するいわきJCの強みを活かした組織図を制作することができました。

■ 次年度以降へに引継ぎ事項

災害対策について、様々な業種の方がいわきJCに所属していることから、その業種毎で災害時に対応できるよう振り分けたいしましたが、実際災害時に動けるのかどうか(家族や仕事、そもそもいわきJCの活動にアクティブなのかどうか)というのは本人の状況で変わってくる為、本人の意思を確認したうえで精査する必要があるのではないかと考えます。

いわき市民が積極的にまちづくりに興味を持ち、新しい魅力に気づいてもらうために、まちのシンボルを発展させる為事業を行ったイルミエールいわきですが、いわき市民の声を生かした事業として今後行っていくためにも、市民目線での変化をさせていく必要があります。根本的な「なぜイルミネーション事業を行っているのか」、「どの団体が主催しているのか」についても既存のSNSやHPの活用、マスメディアを巻き込んだ広報活動を行うということが市民への認知、そしていわき市民が積極的にまちづくりに興味を持っていただけるきっかけになると考えられます。まちづくりを担うALL IWAKI委員会の役割としては今後も引き続き行政や関係団体への連携を強化できるよう、次年度の委員長には顔つなぎを行い、途切れない完成性を築く必要性があります。またより市民の皆様の事業にしていけるよう、アンケート結果ももちろん大事ではありますが、身近な人(会社の人や仕事先の方家族など)にヒアリングを行い、よりよいまちづくりの推進を計画して行く必要があると考えます。

■ 委員長所見

我々の委員会では、いわき市民がまちづくりに興味関心を高めること、災害に強いいわきJCをつくることを行ってきました。災害支援協定に基づく連携先や他団体との顔の見える関係性、イルミエールいわきをきっかけに、積極的にまちづくりに興味を持ち、新しい魅力に気づいてもらうために、まちのシンボルを発展させることを重点的に考えました。上記に記載した通り、3月の例会では防災教材カードゲームを通して自らの考える災害時の行動について共有するとともに災害の行動について知識のある災害支援協定に基づく連携先、他団体とともに事業を行ったことで、プロの意見を会員全員で共有できました。イルミエールいわきでは、若年層を巻き込み、積極的にまちづくりに興味を持つとともにまちのシンボルとして発展していくよう目指しましたが、昨年よりイルミネーションを点灯させる本数が減少した、学生とともに築いていくコンセプトの発信が不足していたなど改善点も多く実現に至らなかったことから、今後はイルミネーションを点灯させる意味の周知・必要性、他媒体を巻き込んだ情報の発信を改善していくことが必要です。災害対策組織図の更新については、災害時即座に行動しなければいけないため、組織の必要性を再確認した上、役割に配置する人員へのヒアリングが必要だと考えられます。これらの取り組みをより効果的に次年度以降展開するためには、いわきJCの行う事業の必要性を多くの市民へ届けられるよう情報発信、連携団体とのコミュニケーション、市民の意見も尊重するとともにいわきJC会員の努める役割をいうものを再認識し強化していくことがさらなる市民参加と地域社会への貢献を目指し、災害対策やまちづくりの基盤を築くために重要です。

2024年度 委員会年間活動報告書

■ グループ名	子ども未来開拓委員会	■ 副理事長	熊田 哲也	■ 常任理事	佐久間 順也
■ 委員会名	子ども未来開拓委員会	■ 委員長	佐藤 亮介		
■ 副委員長	庄司 雄太	■ 副委員長	木村 俊太郎		
■ 運営幹事	小林 豊	■ 会計幹事	俣田 辰寛		
■ 委員	若松 佑樹	柏 果穂	地引 勇太	栗林 美沙	一ノ渡 崇弘

■ 委員会の設置背景

- ①情報通信技術が発達し利便性が高まる一方で、子どもたちを取り巻く社会環境は常に変化をしております。知りたい情報を苦勞せずに手に入れられる環境は、自分で物事を考える力を衰退させコミュニケーション能力の低下に繋がることが考えられます。様々な体験や経験を通じて、自主性を持ち豊かな創造力を養うことが将来のいわき市を担う人財の育成に繋がります。
- ②いわき市は人口減少社会に突入し、特に若者の都市部への流出が課題となっております。その課題を改善するためには、地域の若者が自分が住まうまちに興味関心を持ち、自分のまちは自分たちで創るという当事者意識を高めていくことが、これからのいわき市の発展を担い地域を牽引する若者の創出に繋がります。
- ③いわき市はプロスポーツチームの活躍といった、スポーツに関連する機運が高まりつつあります。市民の皆様がスポーツを通じて活躍できるプラットフォームを提供し続けることで、スポーツによる地域の活性化に繋がります。

■ 目的

- ①次代を担う子供たちが様々な視点から物事を考えられる人財となれるよう、古くからの手法・体験や現代とこれからの情報化社会を学ぶ機会を提供します。
- ②今後、社会で活躍していく若者が、JCIいわきの会員と共に故郷いわきの現状、未来を考え、地域との架け橋になれる人財へと意識を変える機会を提供し、地域のリーダーへと成長するきっかけを作ります。
- ③いわきには様々なスポーツ団体、公共施設がありプロスポーツチームも存在し、経済活動にも寄与しており、スポーツは地域活性化、青少年育成の一つの手段であると考えます。「すばマッチいわき」を通して子供達が交流する機会をより多く提供することを推進していきます。

■ 開催事業

日時	[事業名] 「Let's study『モチベーション』」				
2024年2月13日(火)18:30~21:00	[開催場所] いわき市生涯学習プラザ 館内会場:4階大会議室(2)				
	[事業種別]	他2	[公益性]	無し	[対象者] いわきJC正会員、特別会員
	[背景、目的]	<p>【背景】 現在のいわきJCは、経験豊富な会員や長年在籍していた会員が卒業していくことで、活発に活動する会員が減少し、組織力の低下が考えられます。これにより今まで行ってきた事業を同様に実施することが難しくなることが懸念されます。このような状況下でも、より多くの会員がモチベーションを高く保ち活発になることで、より良い運動を発信できる組織となることが必要であるかと考えます。</p> <p>【目的】 JC運動、活動に対してモチベーションを高く保つことができ、前向きに取り組めるような考えを持てるような会員が多くなり、いわきJCの組織力が今以上に活発になっていくことを目的とします。</p>			
[事業内容]	<p>いわきJCの会員に対して、日頃から取り組んでいる仕事やJC活動においてのモチベーションの上げ方・保ち方、そして人のモチベーションを上げさせる手法を学べる事業を行います。モチベーションが低いと生産性の低下、自発的に行動出来ない、JCIにおいてはスリープ会員の増加や職場では離職の増加などのケースが増えてくると考えられます。モチベーションの上げ方・保ち方、モチベーションの上げさせ方を学ぶことにより、今後のJC活動だけでなく、社業にも活かすことができます。</p>				
日時	[事業名] 「BACK TO THE 미래のたべもの」				
	[開催場所] がんぷ村株式会社、株式会社相馬屋パックご飯工場、福島県いわき海浜自然の家				
	[事業種別]	公2	[公益性]	有	[対象者] いわき市民、いわき市内の小学生5~6年生、いわきJC正会員、特別会員
	[背景、目的]	<p>【背景】 変化し続ける社会の中で活躍する人財には「主体性」が必要とされています。次代の子どもたちが成長のために、様々な機会を通して、子どもたちが潜在的に持つ好奇心を刺激し、主体的な学びの場を提供する必要があります。</p> <p>【目的】 (対外) 子どもたちの探求心を刺激し、主体的な学びに導くことで、将来的にいわき市をけん引する人財としての一歩を踏み出してもらおうことを目的とします。 (対内) JCメンバーが地域の大人として、次代を担う子どもたちの成長を体感することで、青少年育成における機会提供の重要性を認識することを目的とします。</p>			

<p>2024年6月15日(土) 8:00~21:45</p> <p>2024年6月16日(日)7: 00~13:00</p>	<p>[事業内容]</p>	<p>・がんぶ村では、築280年の古民家で古くからの手法を用いた野菜の収穫や精米等の農業体験をしてもらうことにより、実体験に基づく知識の獲得をもらい興味・関心を深めてもらいます。興味関心を深めることで自分から学びたい意欲を向上させます。また、かまどを使った煮炊きという非日常を体験してもらうことにより、古来の生活習慣がどのように現代の利便性へとつながっているかを体験してもらい、食への感謝や大切さも学んでもらいます。</p> <p>・相馬屋パックご飯工場では、田んぼから採れた米からスーパー等で販売されており、普段何気なく目にするパックご飯になるまでを理解し、現代技術の進歩を肌で感じてもらいます。がんぶ村で学んだ知識と合わせて運動性のある知識を得てもらいます。また、がんぶ村にて精米した米を利用して糖度を測る体験を実際に行って最先端技術を体験することによって理解を深めてもらいます。参加者がこれまで気にかけてこなかった身の回りの事象に様々な知識が生かされていることを学び、新たな気づきの持てる人財となるべくきっかけとします。</p> <p>・目玉として東京大学元教授の芋生憲司様より農業・食品産業の最先端についての講義を実施します。内容は最先端の農業技術について、未来の農業(食文化)の展望や目指すべき方向性を中心に講義をもらいます。参加した小学生しか聞くことのできない話を聞き、参加したことによって新たな夢を持つことができ、これからの時代を担う人財となる第一歩となれるような内容とします。</p> <p>・学んだことを元にしてグループワーク形式で「食」をテーマで「私達の考える未来の食文化」について小学生自ら考えて成果発表をもらうことにより、理解と気づきを最大限に引き出し、参加者にとって実りある事業へとします。さらに宿泊体験をしながら事業を実施することで、参加した子ども達の主体性をさらに育みます。</p>	
<p>日時</p>	<p>[事業名]</p>	<p>「Let's Study IWAKICITY」</p>	
<p>[開催場所]</p>	<p>いわきゆったり館 ボランティア研修室大</p>		
<p>[事業種別]</p>	<p>公2</p>	<p>[公益性]</p>	<p>有 [対象者] いわき市内の高校生、いわきJC正会員、特別会員</p>
<p>[背景、目的]</p>	<p>【背景】 現在、地方から首都圏への人口流出が進む中、いわき市でも若者の転出超過に歯止めをかけられない状況です。そういった状況が進むと、地域経済の縮小が懸念されます。そうならないために、いわき市の未来を創る若者たちの意識を高める必要があります。</p> <p>【目的】 (対外) 「住み続けたいまち、帰りたくなるまち」を実現するために、地域の未来を担う若者たちの意識を高め、彼らが「未来のいわき」を創造するための行動を起こす機会を与え、まちづくりを担う人財になってもらう事を目的とします。</p> <p>(対内) いわきJCの会員が、まちづくりについての理解を深め、まちづくりを担う人財の育成する意識の醸成を高める事を目的とします。</p>		
<p>2024年10月20日 (火)13:30~16:00</p>	<p>[事業内容]</p>	<p>・10月事業(座談会による市長提案)までのスケジュールや事業内容(Iターン・Uターンしたくなるような、まちづくりの施策について)」の説明(約30分) 参加者が決定次第、高校ごとにオリエンテーションを行います ※各高校に子ども未来創造委員会及びJCメンバーが放課後伺い、オリエンテーションを実施予定。高校ごとに日程調整します。 ※各高校へは大人数では伺えないので、子ども未来創造委員会メンバー2名+理事長+JCメンバー2名の計5名程度で伺う予定。 委員会内で事前に「いわき市の現状・Iターン・Uターン」の資料作成・勉強会を行い、オリエンテーション時の高校生向けの資料作成をします(いわき市の過去から現在までの人口推移・市外のIターン・Uターン施策の成功事例等) ・オリエンテーション後～市長との座談会までの間、教頭先生を通し連絡を密にとり各学校のサポート出来るようにします。オリエンテーション後～10月13日の期間に各高校に分かれて1-2時間程度のワークショップ(資料の作成補助・意見の軌道修正等)を1回程度開催予定。)または学校行事などにより時間が取れない学校はリモート会議などで臨機応変に対応します。 ・10月20日 市長提案事業(座談会)及び10月例会 市長からのご挨拶後、現在取り組まれているいわき市のまちづくりに関してご講演をいただきます。 当日の座談会では、市長や他高校の生徒と会うので緊張することが予想されます。まずは高校生の緊張を解くのに、市長と高校生たちによる雑談を行います(アイスブレイク) 高校生から市長に対し質問を行い、緊張がほぐれたところで市長への提案事業を行います。</p>	

日時	[事業名] スポーツマッチングサイト「スポまっついわき」2024年度推進事業			
	[開催場所] 無し			
	[事業種別] 公1	[公益性] 有	[対象者]	いわき市民、いわきJC正会員、特別会員
2024年3月1日～2024年9月30日	<p>[背景、目的]</p> <p>【背景】 公共施設の新たな質的価値を見出すことを目的に、スポーツマッチングサイト「スポまっついわき」を2021年に開設しました。開設から3年がたち登録チーム数や利用者が増えてきております。引き続き利用促進を促し、子供達が交流する場を提供し続けるためにも登録団体数を維持していく必要があります。</p> <p>【目的】 (対外) 市民の皆様にはスポーツ団体のポータルサイトとして活用いただくことで地域益、子供達が活発に交流することで、青少年の健全な育成につなげることを目的とします。 (対内) 当サイトを推進する意義を会員が理解し、推進事業をより円滑に行うことを目的とします。</p>			
	<p>[事業内容]</p> <p>【マッチングを行う運営】 既に登録している人達向けの、サイトの活性化(登録者同士のマッチング)に目を向けた推進を図ります。登録者にアクションを起こせば検証もでき、このサイトの必要性も次年度以降示せません。利用者にサイト内で試合や合同練習、その他イベントの募集を促していきます。手順としては登録者に事前に個別メールで連絡を取って、他団体とマッチングできるようアナウンスし、反応をみることからスタートします。反応があればサイトに掲示し、掲示されたことを全体にメールしていきます。 アクションごとに反応がなかった、手応えがあった等の検証もしやすいかと思えます。</p> <p>【いわきJC会員への依頼】 2023年度の踏襲として、SNSでの発信の協力と例会等の機会を通して当サイトの周知を図ります。</p>			

■ 年間計画の実現と成果

「Let's study『モチベーション』:例会参加メンバーのモチベーションの理解が深まり、JC運動・活動、社業にも活かせるといった効果が得られた例会であったと考えます。

「BACK TO THE 미래의たべもの」:事業では、農業体験、工場見学、卒生先生の学習と宿泊活動を通して、子どもたちは自分たちの食にまつわる様々な知識を育むことが出来たと考えます。また、親元を離れ、子どもたちだけで事業に参加したという点で、自ら考え、学ぶことによって、子どもたちの主体性を育む一番の機会になったのではないかと考えております。

「Let's Study IWAKICITY」:高校生と市長の意見交換を目の当たりにすることで、地域の未来を担う若者たちの、まちづくりの意識醸成のための一助となるキッカケを作ることができたと考えられます。また、実際にまちづくりに関わる若者に触れる事で、まちづくりの重要性をより理解してもらえたと考えます。

スポーツマッチングサイト「スポまっついわき」2024年度推進事業:今年度は当初の目標としていた、すぽマッチを通じた各団体の活性化や公共施設の利用など、有効活用をすることができませんでした。

■ 次年度以降へに引継ぎ事項

青少年事業は、小学生から高校生、またいわき市民と多くの方々を巻き込む事業です。各団体や学校との密な打ち合わせや事前の準備が非常に重要となります。委員会メンバーはもちろん、JCメンバー全体に協力を仰ぎながら進めていかないと成功させることが困難だと考えられます。担当委員会ですっきりと準備を行い事業を進めていく必要があります。

小学生を対象にした事業は、親御様から大切なお子様を預かるので、体調不良や怪我などが無いよう細心の注意を払ってください。また、金額の大きな事業となりますので、事前の予算組みも重要になってきます。しっかりと関係各所と打ち合わせすることが大切です。

高校生と市長の事業については、高校側と日程の打ち合わせをしっかりと行う事が重要です。修学旅行やテスト期間、部活動の大会など、事業と被る可能性も考慮しながら、早い段階で日程の調整を行ってください。

補助金が絡んできますので、年初めから動き出さないと間に合わない可能性もありますので、委員会内でしっかりと役割を決めて動いていくことが非常に重要です。

■ 委員長所見

子ども未来開拓委員会は、2月例会を初め、6月の小学生を対象にした事業・10月の高校生と市長を対象とした事業、スポまっつい運営を行ってきました。我々の委員会では、子どもたちや学校、保護者の方々や関係各所と大勢の方々を巻き込む事業がメインです。引継ぎ事項にも記載しましたが、どれだけ事前の準備に時間を掛け、綿密に事業を組み立てていくのが非常に重要になってきます。1年間を通して、我々の委員会では、事前の準備が足りなかったと反省しております。

ただその中でも、事業を通して、子どもたちの成長の一助となる事が出来たと考えております。

今後、いわき市を盛り上げていくためには、地元の若年層をどれだけ巻き込めるかが重要となってきます。青少年事業では、そういった若者たちに「キッカケ」を与え、機会の提供をしていく使命があります。今後、青少年事業で、そういった若者を一人でも多く作っていきよう願っております。

2024年度 委員会年間活動報告書

■グループ名	総務拡大グループ	■副理事長	鈴木 孝始	■常任理事	草野 祐介
■委員会名	総務拡大委員会		■委員長	中川 優寛	
■副委員長	渡辺 啓一郎		■副委員長	大滝 真優	
■運営幹事	柏 義男		■会計幹事	柴田 真琴	
■委員	鈴木 篤	佐藤 充	永山 竜視	熊田 舞弥	吉田 大将
	柳沼 奈々	大城戸 浩史	門馬 円香	平子 あゆみ	大平 廉
	里見 法道	松崎慎介	櫛田 伊一郎	松崎 和磨	鈴木 祥子
	高木 利記	遠藤 昌希			

■委員会の設置背景

① 総務
現在、JCIいわきは若返りの時期を迎え、未来に希望を見出すチャンスの時期を迎えています。しかし、急速な若返りによる一時的な組織力の低下が懸念されるところであり、われわれの運動を展開する力も弱まってしまう。JCIいわきがこのチャンスの時期を前向きに捉え、ひと・まちづくりの運動を未来に繋いでいくためには、次代を担う若手の育成と組織力の維持を共立させなければなりません。そのため、円滑な組織運営を行う組織の引き立て役となる委員会を設置する必要があります。

② 拡大
JCIいわきの会員数は年々減少傾向にあります。本年度から数年の間は卒業会員数が少なく規模感を回復させるチャンスの時期を迎えています。しかし、本年度はJCの理念に深く共感していたメンバーが数多く卒業することで組織全体としての理念への理解度低下が懸念されるところであり、われわれの理念共感の輪を広げていく力も弱まってしまう。JCIいわきが今まで通りのスケールメリットを活かした運動を展開し、理念共感の輪を広げていくためには、共通の志を持った新たな仲間を発掘し増員し続けなければなりません。そして、新たな仲間となった新入会員がJCの理念に共感し組織に定着できるよう計らうと共に、彼らの成長を促す委員会を設置する必要があります。

■目的

- ①年間を通したスムーズな組織運営を行う為に、各委員会・事務局と連携し各会議体や事業の運営に対して補助を行う
- ②組織として、ひと・まちづくりの運動を展開していく為に、各関係団体との連携を取り合える関係の構築を行う
- ③JCIいわきの組織力を強化していく為に、参加意欲が高い新入会員の拡大に努め、外部や理事役員、各委員会より拡大情報の収集及び精査、共有を行う
- ④メンバー同士、共通した志を持って活動していく為に、新入会員オリエンテーションや既存会員を含めたメンバーに向けて、JCの理念の共有を行う

■開催事業

日時	[事業名] 公益社団法人いわき青年会議所2024年度会員拡大計画				
2024年1月～9月	[開催場所]	無し			
	[事業種別]	他1	[公益性]	無し	[対象者] いわきJCOB会、その他OB・OG、各関係団体 日本青年会議所：組織グループ 福島ブロック協議会：組織連携推進会議
	[背景、目的]	<p>【背景】 JCIいわきでは会員数の減少が続いています。本年度は、JCの理念に深く共感していた経験豊富な会員が多く卒業を迎えることもあり、この流れが加速する恐れがあります。今後の組織力強化のため、会員同士でJCの理念を共有し、周りにも共感を広げていく必要があります。</p> <p>【目的】 会員同士でJCの理念を共有し、周りにも共感を広げていくことで、共に成長し活動や運動を展開していく仲間を増やすことを目的とします。</p>			
	[事業内容]	JCIいわきのOB・OG、各関係団体との交流や各会員の仕事・生活の中で出会う方々から入会に繋がる情報を収集します。また、入会後は会に定着するようにアフターフォローを細かく行い、懇親を深める場やJCを学ぶ場として新入会員オリエンテーションなどを開催します。 オリエンテーションは8月までの偶数月に計4回実施し、JCの理念を深く理解している経験豊富なメンバーをアドバイザーとして、JCの基本から歴史、理念等を学ぶ内容で開催します。			
日時	[事業名] 公益社団法人いわき青年会議所2024年度新年会				
2024年1月27日(土) 19:00～21:00	[開催場所]	PALACE IWAYA(パレスいわや)			
	[事業種別]	他1	[公益性]	無し	[対象者] いわきJC正会員、いわきJCOB会、その他OB・OG 各関係団体
	[背景、目的]	<p>【背景】 JC運動はOB・OG、各関係団体にいわきJCを理解していただき、引き続きご協力いただくことでより円滑に行うことができます。それは、われわれの活動への理解があつてこそ、運動に繋がると考えるからです。本年度のいわきJCの組織体制や運動方針を示し、理解を得た上で、より良好な関係を構築する必要があります。</p> <p>【目的】 (対外) OB・OGや各関係団体に本年度のいわきJCの組織体制や運動方針を理解していただくことを目的とします。 (対内) 現役会員が20周年最初の事業を、メンバーとともに盛大に創りあげることで、本年度のJC活動や運動の機運を高めることを目的とします。</p>			
	[事業内容]	<ul style="list-style-type: none"> ・2023年度の活動報告(オープニングムービー) ・2024年度の運動方針発表(野木理事長挨拶) ・運動にご理解、ご協力を頂いている方々に向け、感謝の意を伝える場とした ・2024年度理事役員お披露目 ・委員会PRを行い、2024年度の委員会及び方針をお披露目 			

日時	[事業名] 益社団法人いわき青年会議所2024年度7月例会				
	[開催場所] ドーム いわきベース 社員食堂				
	[事業種別] 他2	[公益性] 無し	[対象者]	いわきJC正会員、特別会員	
令和6年7月12日(金) 18:30~21:00	<p>[背景、目的] 【背景】 地域社会の中核を担うわれわれの世代は日々様々な活動を行っているため、改めて「新しいことへ挑戦する」機会が創りにくくなっています。本来、われわれは青年としての勇気と情熱をもって、日々「挑戦」を続けるべきだと考えます。われわれが引き続きで地域社会で運動を展開していくためには、会員一人ひとりが意欲的に「挑戦」する意識を醸成し、主体性をもった組織となる必要があります。</p> <p>【目的】 会員に「新しいことへ挑戦する」気持ちを醸成していただくことで、一人ひとりが意欲的に活動する主体性をもった組織となるための布石とすることを目的とします。</p>				
	<p>[事業内容] <第1部> 大倉様による講演を行いました。プロスポーツが存在しなかったいわきの地で挑戦し続けている大倉様の苦悩や成功体験、選手やスタッフの意識向上、新たな挑戦への動機を学ぶことが出来ました。</p> <p><第2部> これから挑戦したいことを会員一人ひとりに考えていただきました。発表の内容は受付時に割り振られた「JC」、「社業」、「スポーツ」、「プライベート」の4つのテーマについて各々の挑戦を考えていただきました。各会員の調整内容を公表することによりいわきJC内で各会員の挑戦することが共有できました。</p>				
日時	[事業名] 公益社団法人いわき青年会議所入会リーフレット作成計画				
	[開催場所] 無し				
	[事業種別] 無し	[公益性] 無し	[対象者]	無し	
2024年11月～	<p>[背景、目的] 【背景】 既存のリーフレットは情報更新がないまま発行から9年が経っており、我々の現在の運動を伝えることが難しくなっています。いわきJCのより新しい情報を提示することが理念共感に繋がる考え、本件の計画に至りました。</p> <p>【目的】 (対外) 新リーフレットを制作し拡大に活用することで市内青年経済人のいわきJCへの入会意欲を高めることを目的とします。 (対内) いわきJCの理念に共感する仲間を創るため、我々の現在の運動を伝えることができるリーフレットへ一新することを目的とします。</p>				
	[事業内容] 2025年度の拡大活動に向けて新しい新入会員勧誘パンフレットを作成いたします。				
日時	[事業名] 公益社団法人いわき青年会議所2024年度11月例会「ユニバーサルスポーツ(モルック)を体験し交流を深めよう				
	[開催場所] いわき市生涯学習プラザ 大会議室				
	[事業種別] 他2	[公益性] 無し	[対象者]	いわきJC正会員、特別会員	
2024年11月15日(金) 18:30~21:00	<p>[背景、目的] 【背景】 いわきJCが引き続き運動を展開するためには、JCが40歳で卒業する制度がある以上、新入会員の活躍は不可欠です。しかし、新入会員や歴の浅い会員は既存会員との人間関係が希薄であるため、積極的にJC活動に参加しづらい傾向があります。会員同士の関係性を深めるため、交流の場を自ら創出する必要があります。</p> <p>【目的】 (対内)いわきJCの組織力を向上させるために、メンバー同士の人間関係を深め結束力を高めることを目的とします。</p>				
	[事業内容] 年齢、性別、障害の有無やスポーツの得意・不得意等に関わらず、その場にいる誰もが一緒に楽しめるユニバーサルスポーツのひとつである「モルック」に取り組み、身体を動かす楽しさを体験しました。また、スポーツを通し、会員同士の交流も深め、本例会の事業以降、積極的に活動に取り組める環境を創りました。				

日時	[事業名] 公益社団法人いわき青年会議所2024年度卒業式・感謝ナイト			
	[開催場所] いわきワシントンホテル			
	[事業種別] 他2	[公益性] 無し	[対象者]	いわきJC正会員、特別会員 いわきJCOB会
2024年12月8日(日) 15:00～20:00	[背景、目的] <p>【背景】 これまでいわきJCを牽引し、JC運動に尽力くださった卒業生へ感謝の意を表するとともに、卒業生の想いを受け継ぐ場が必要です。先輩方との交流を深め、今後もいわきJCが強い結束力のもと運動が行えるよう、本事業を計画しました。</p> <p>【目的】 (対外) なし (対内) 卒業生へ感謝の意を表し新たな門出を祝福するとともに先輩方との交流を深めることを目的とします。</p>			
	[事業内容] <p>「卒業式」 ・卒業生入場 ・卒業証書授与及び花束贈呈 ・送辞、答辞 ・卒業会員活動スライド上映</p> <p>「感謝ナイト」 ・記念品、目録贈呈 ・イルミネーションタワー</p>			

■ 年間計画の実現と成果

会員拡大活動: 今年の新規入会者は16人でした。当初目標の30人には大きく届きませんでした。

新年会: 滞りなく、新年度体制の発信、関係諸団体との交流を図ることができました。

7月例会: いわきスポーツクラブ代表の大倉様に講演いただき、「挑戦」し続けることに重要さを学びました。この例会を通して、会員自身がこれからの挑戦したいことを発表し、共有することで、より明確に挑戦し続けることができると思います。

入会リーフレット作成: 長年、刷新されていなかったリーフレットを現状を踏まえて新規作成いたしました。このリーフレットを使用した拡大活動において、入会後の活動をイメージしやすくなったと考えます。

1月例会: 例年通り、新入会員を中心に設えた例会です。今回は、モルックを通して、会員間の交流を深めることができ、さらなるいわきJCの組織力向上につながったと考えます。

卒業式: 多少、進行上のミスもありましたが、全体的には滞りなく式を進められたかと思えます。今年度の独自演出であるイルミネーションタワーは式後のアンケートでも好評をいただきました。

■ 次年度以降への引継ぎ事項

会員拡大活動は、担当委員会だけでは限界があります。今年度も拡大情報を担当委員会以外からの拡大情報の提供は三役中心になっており、なかなかいわきJC全体で取り組めたとは言いにくい状況でした。拡大活動はいわきJCが継続して運動を展開していくためには必須な活動です。来年以降もいわきJC全体を巻き込んでの拡大活動が必要です。

新年会、卒業式については基本的な流れは変わらないものの、毎年独自演出を求められるため、そこには頭を悩ませることになるので早めに準備に取り掛かった方が良いと思います。

新入会員を中心とした例会ですが、どの程度任せきるかはその年で異なると思います。今年は調査・研究、議案書の作成から、実施、検証まで、スタッフのフォローもありながらも新入会員がほとんど主導で実施しました。どの程度、新入会員に任せるかは、その年の新入会員の傾向から判断することが望ましいと思います。

■ 委員長所見

新年会、卒業式という重要な事業では来賓やOB・OGをお招きする事業の難しさを実感し、新入会員の拡大活動では、新入会員を増やすことの難しさを実感した1年でした。

総務という立場では、いわき市民や子供たちに対して何かを提供する事業を行いませんが、いわきJCの運動の中で、関係諸団体や諸先輩方に日ごろの感謝と1年間の運動方針を発信する新年会やいわきJCの発展に貢献された卒業生の門出を祝う卒業式の実施は、例年開催される事業だからこそ、それらの開催目的を改めて考える必要があると思います。

例会自体は、新入会員が中心とした11月例会ではモルックを通して大いに会員交流が出来たと思います。この例会の成功から得た達成感は相当大的なものだったのかと思います。そして例会の実施する過程で強まった同期の絆はこれからのJC活動に大きく活かすことだと思います。

新入会員拡大活動では、何とか卒業生よりは多くの入会者がおりましたが、年当初に掲げた目標には到達しませんでした。いわき青年会議所という名前は聞いたことがあっても、活動内容を知っている方はほとんどいないと思います。これからの拡大活動は、広報活動の力添えがますます重要になってくると思いますので、広報担当と連携をとりながら拡大活動を推進していただきたいです。

この1年間は委員長として至らない点がたくさんあったと思いますが、スタッフや委員会メンバーがサポートしてくれたことで、大きなトラブルもなく役割を全うすることができました。この1年間で得た経験を他の会員に伝えることで、いわきJCのさらなる発展に貢献していきたいです。